

## カラマツ柱材のヤニ渗出防止法

家具・木工・建築内装材（長押・敷居・鴨居・縁甲板等）を対象としたヤニ渗出防止乾燥法について、情報No.36（1979年1月号）に紹介したが、今回は柱材のヤニ渗出防止法を説明します。

長年月使用されている木造建築における柱の含水率は、床下で20～23%と高く、天井裏で12～14%という具合に上部と下部での含水率差が大きい状態にあります。また柱材の縦方向の収縮量は極めて小さく、厚さ・幅方向でも、棟上げ後の経過期間に乾燥収縮し、その後において造作が行われるので、乾燥収縮によって柱と造作材との間にすき間が余り発生しません。

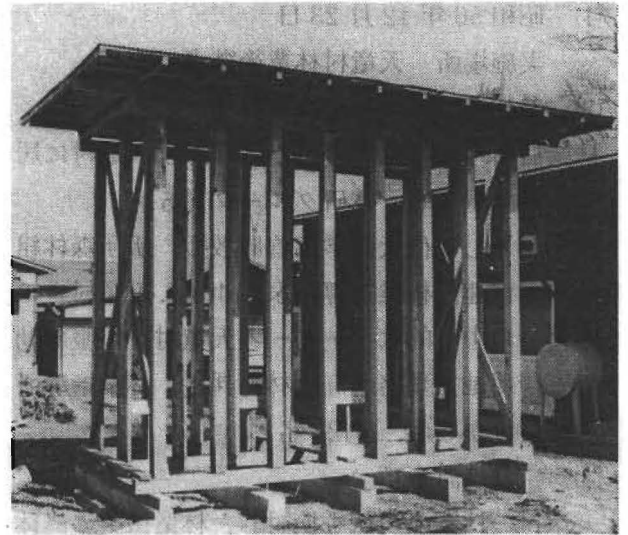
以上のことから、建築用の柱に対しては人工乾燥の必要性は少なく、見え掛り部分（化粧）の柱のみについてヤニの渗出が問題となってきます。そこでヤニの渗出の防止だけをねらいとした簡易な処理法について検討しました。

### 1. 柱材のヤニ渗出防止の検討

カラマツ丸太1本につき2本の10.5 cm 正角材を製材し、一方を蒸煮処理、もう一方を無処理とし両者を比較しました。ここでいう蒸煮とは、3～4 kg/cm<sup>2</sup>の圧力を持った温度130°C前後の蒸気で（正角）材を直接、蒸すことです。蒸煮時間は2・3・5・10・15時間の5条件とし、処理後、これらを日光暴露（写真に示すように）に付し、ヤニ渗出状況、処理後の形質変化を調査しました。その結果、全ての無処理材には、著し

いヤニ渗出が認められましたが、処理時間が長くなるに従って、ヤニ渗出量は少なく、5時間以上の処理材には殆ど認められず、また材面割れ・曲り・ねじれの欠点発生は、無処理材と同程度でした。

従って、実用上支障のないヤニ処理効果をねらいとするには、5時間程度で良いといえます。



蒸煮処理後の日光暴露の状況

### 2. 実用技術として

図-1に柱材のヤニ渗出防止の工程を示しましたが、その処理時間は、台車への機積みから出庫まで1日で終了し、処理費も家具や建具などのヤニ処理乾燥費の1/3～1/4程度で、この処理により、カラマツ材の附加価値をより一層高めることができます。

（林産部 三村）

